

永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
 令和4年8月発行・第184号
 認定こども園西九州大学附属 三光保育園
 TEL: 0952-31-6877

8月の生活目標

- ・遊んだ後は、みんなで片付ける
- ・自分のことは一人でやってみよう。

赤ちゃんの日

1歳の日

2歳・3歳の日



歌を歌ったり、プールに入ったりして、楽しく遊びました(^^♪

8月・9月の「子育て支援事業」のお知らせ

- ・8月22日(月) 10:00~11:00 …フリーデー
- ・8月23日(火) 10:00~11:00 …フリーデー
- ・8月24日(水) 10:00~11:00 …フリーデー
- ・9月5日(月) 10:00~11:00 …2.3歳の日
- ・9月6日(火) 10:00~11:00 …1歳児の日
- ・9月8日(木) 10:00~11:00 …1歳児の日
- ・9月9日(金) 10:00~11:00 …赤ちゃんの日(1歳未満)
- ・9月12日(月) 10:00~11:00 …フリーデー
- ・9月13日(火) 10:00~11:00 …フリーデー
- ・9月14日(水) 10:00~11:00 …フリーデー

開催場所：三光幼稚園・保育園の運動場

※電話でお申し込みください。(受付時間：9時30分~17時まで)

8月分の予約は、8/1から受け付けます。9月分の予約は9/1から受け付けます。先着10人です。

※赤ちゃんの日は兄弟児の参加はご遠慮下さい。

1歳と2・3歳の日は、参加できます。

※感染症対策にご協力ください。

※詳しくは、ホームページを必ずご覧ください。

「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながら久しぶりにおしゃべりしませんか？

日時：8月29日(月) 9月15日(木)

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。
 ※毎月第3火曜日の14時~16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。

事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

さんこう・ぽぽら堰堤開放の時間帯について

【開園日】〇月~金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】〇9:00~12:30

- ・園行事の為、利用できない場合があります。
- ・熱中症指数が高い時は、安全のためご遠慮下さい
- ・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

〇12:30~13:30

昼休みの為閉園

〇13:30~16:00

ご利用の場合は、事前に電話での申し込みをお願いいたします。

「子どもの造形へのまなざし」

西九州大学 子ども学部子ども学科
准教授 新井馨

子どもは、何かを作ったり、絵を描いたりすることが大好きです。人はこういった造形活動を通して、つくる喜びを味わい基礎的な諸能力を育てています。造形活動とは、何も無いところから形を生み出し、それを通じて他者に伝える活動、つまり「表現する」「創造する」ということでもあります。さて、子どもはどんな気持ちでそのような一連の行為、「表現」や「創造」にいたるのでしょうか。また、子どもが嬉しそうに見せてくれる、作ったもの・描いたものへ私たち大人はどのようなまなざしを持って対応すればよいのでしょうか。

例えば、子どもの描いた絵に対して「上手に描けたねー。」とよく大人は言います。この言葉が悪いわけではありませんが、上手があるということは下手があるということです。目の前にある子どもの表現・創造を見ているのではなく、上手な作品・下手な作品といった概念を見ているということです。どういうことかという、子どもの作品は、みずみずしい感性にあふれています。その子が何に驚き、何に目を見張り、何に心動いたのかが画面の中いっぱい表現されています。それを「上手に描けたね」の言葉ではなく、その子の見たこと、感じたことを見るということです。大切なことは、その子どものつぶやきに耳を澄ます、ということです。

そうは言っても、、と思われるかもしれません。ここで、思い出してほしいのですが、これを読んでいらっしゃるあなたも、私も、かつては子どもでした。しかし、私たち大人は成長とともに子どものころの豊かな感性をどこかに置き忘れてきたように感じませんか。小さなころには平気に触っていたカエル、手づかみで捕まえた蝶々やカナブンも大人になるとすっかり触ることができなくなっていないですか。梅雨明けの青空の高さや、冬の寒空の下吐く息の白さにワクワクした気持ちはどこにいったのでしょうか。子どもは、私たち大人がなくしてしまったかもしれないこういった感性をもって日々生きているのです。「上手だね」とほめる言葉だけではなく、毎日の発見や喜び、ワクワクが、いっばいつまった画面の背景を探ってみてください。わからなければ子どもに聞いてみましょう。きっと、どうして描いたのか、何を考えたのかたくさん教えてくれることでしょう。そのお話からは、きっと素敵な子どもの世界を知ることができるはずです。そして、これらのコミュニケーションから、子どもは表現する喜びを周囲のあたたかな関わりから獲得し、また成長してゆくのです。